

山梨県埋蔵文化財センターからのお知らせ

**知ろう 山梨の歴史！
山梨の遺跡展 2011**

〈出展遺跡名〉
山岳権持遺跡分布調査 (大塚店、富士山麓山岳権持七十九所、神子、富士河口湖)
富士山麓山岳権持七十九所、神子、富士河口湖
美濃遺跡B区4 (甲府市)
甲府城下町遺跡地方検察庁地点 (甲府市)
町屋口遺跡 (富士川)
御坂中央遺跡 (甲府市)
三友遺跡 (甲府市)
中丸遺跡 (甲府市)
甲府城石垣遺跡 (甲府市)
甲府城門遺跡 (甲府市)
甲府城跡 (甲府市)
馬内分屯調査
埋文活用事業
資料普及活動事業

三ヶ所遺跡出土「墨書土器」

美濃遺跡B区4出土「イノシシ箸新発見跡」

2011年3月12日(土)～4月10日(日)
山梨県立考古博物館 多目的室
開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
※3/14、3/22、3/28、4/4は休館

入場無料

主催 山梨県埋蔵文化財センター 共催 山梨県立考古博物館
協力 甲州市教育委員会 北村市教育委員会 甲府市教育委員会 山梨市教育委員会 (他) 山梨文化財研究所
山梨県埋蔵文化財センター 山梨県教育庁事務局022-255-266-3016 022-255-266-3016 http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/index.html

「知ろう 山梨の歴史！ 山梨の遺跡展 2011」 を開催します。

今年度は、発掘速報に加えて、整理作業で分かった成果などを取り上げて展示を行います。ぜひ、ご覧ください。

期 間 平成 23 年 3 月 12 日 (土)
～ 4 月 10 日 (日)
時 間 午前 9 : 00 ～ 午後 5 : 00
(入館は午後 4 : 30 まで)
場 所 山梨県立考古博物館 多目的室

山梨県埋蔵文化財センター ARCHAEOLOGICAL CENTER OF YAMANASHI PREFECTURE

埋文やまなし

http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/ 2011.03.25 第38号

平成 22 年度発掘調査速報 !!

絵図に描かれた河岸お蔵道 町屋口遺跡

遺跡は、富士川町青柳字町屋口にあります。そして、富士川に架かる富士川大橋のたもとに位置し、甲西バイパスの東側に所在しています。調査の結果、江戸から明治にかけての、富士川舟運の起点の1つとして繁栄した青柳河岸と駿州往還沿いの拠点集落・青柳宿とを結ぶ「河岸お蔵道」と、その両側に広がる水田や水路などの跡が確認されました。

河岸お蔵道は東西方向に延び、道の両側には側溝が設けられていて、更に杭が打たれていました。水田については洪水により砂で覆われていて、足跡や稲株痕、畦、水口などが確認され、瓦片や銅線、陶磁器片などが見つかりました。水路については南北方向に掘られていて、その内側には 241 本の杭が打たれ、壁と杭の間には板材や家屋の廃材などが入れられていました。杭材では、ネズミサシ、クリ、マツが非常に多く、不朽しにくい材の選択が見てとれます。水路内からの遺物は非常に少ないものでした。また、この水路の上には、道が造られていたことが明らかにされました。

「地域の中で重要な遺跡」でなければ記録保存目的の発掘調査は行われなくなっている近世遺跡にあって、今回の成果は、甲州三河岸の1つ青柳河岸のバックグラウンドが明らかになったことにあり、絵図だけでは理解しきれない近世の地方のようすが豊富に物語れることとなりました。



昔覚ゆる甲府城展 - 築城技術と甲州大工文化 -

期 間 平成 23 年 4 月 8 日 (金) ～ 4 月 17 日 (日)
開館時間 午前 9 : 00 ～ 午後 5 : 00 (入館は午後 4 時 30 分まで)
会 場 舞鶴城公園 稲荷櫓 ※ 4 月 8・9 日は閉館時間延長あり
記念講演 甲州寺子屋「大工道具とその歴史」
講師 雨宮国広氏
日時 4 月 10 日 10 : 30 ～
場所 恩賜林記念館

編集後記

公園内に咲き誇る梅の花もそろそろ終わりに近づき、桜の花が次の主役の準備を進めています。今年度もあと少しとなり、年度末を飾る「遺跡展 2011」と、新年度初の催しもの「甲府城展」の準備が進められています。遺跡展では、センターでの調査に加え、市町村で発掘した資料も沢山展示します。色々な遺跡・遺物を知る事が出来る良い機会ですから、お散歩がてら、考古博物館にご来館ください。

山梨県埋蔵文化財センター 埋文やまなし 第 38 号

発行日 2011 年 3 月 25 日
編 集 山梨県埋蔵文化財センター
発 行 〒 400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923
TEL.055-266-3016
印 刷 (株) 峽南堂印刷所

弥生時代のお墓を発見！ 美通遺跡

美通遺跡は、弥生時代の遺跡として知られる生出山山頂遺跡の北側に位置し、菅野川と朝日川に挟まれた河岸段丘の先端近くにあります。

都留バイパス建設工事に伴って平成20年度から発掘調査が行われ、今回で3年目となります。

調査の結果、縄文時代・弥生時代・平安時代以降の遺構・遺物が発見されました。

特に、弥生時代のお墓は、この地域では初めての発見で、土坑の中から、約2,000年前の土器と石器・炭化したクルミの破片などが出土しました。

弥生時代のお墓は3基あり、どれも、土器・石器・クルミなどの炭化物が発見されています。

この他、縄文時代の住居跡から土偶の足とイノシシの装飾が付いた浅鉢形土器が出土しました。



甲府城の石垣の続きを発見！ 県指定史跡甲府城跡

当センターでは、9月から県庁舎耐震化に伴い、防災新館建設予定地の旧第一南別館と旧第一南別館東側駐車場、本館南側駐輪場地点で発掘調査を行いました。その結果、甲府城築屋曲輪南西部の内堀（一の堀）に面した石垣が発見されました。



県庁本館南側から東西方向に石垣が見つかりました。規模は、東西に約27m、高さが約1.5～4m、60～70度の角度で築かれていました。石垣は、下部の三段が築城初期に形成された野面の石垣で、その上部には、江戸の中頃に付け加えられたと考えられる切石積の石垣が確認できました。最下段の根石下部からは、石垣の不等沈降を抑制するための胴木も確認されました。

井戸が見つかったよー 甲府城下町遺跡

甲府城下町遺跡は、甲府市の中心街に広がっています。その中の中央1丁目の甲府城から南の場所で発掘調査が行われ、調査面積は、695㎡です。調査の結果、建物跡やレンガ造りの構造物、井戸、中世の遺物を出土した土坑などが確認されました。

今回の目玉は二つあります。

一つ目は、深さ約5m、径約2mのほぼ円形をした井戸です。確認面から約1.1mの深さで井戸枠(桶)が確認されました。この枠は、長さは1.8m前後の17枚の桶材で構成されており、枠の径は65cm前後でした。枠の底部では、丸太材が井桁に組まれていて、その直下には、井戸の壁を掘り込んで2本の丸太材が並行して設置されていたと思われます。井戸跡からは、江戸時代から明治時代にかけての瓦や陶磁器類が出土しました。

二つ目は、中世の遺物を出土した土坑です。当初の規模は確定し得ませんでした。確認面からは浅く、3枚のカワラケが出土しました。出土した3枚の土器は、2枚は上向きで、1枚は伏せた状態で確認されました。土器自体は16世紀前半とみられますが、その性格について現在検討中です。



石垣補修工事 県指定史跡甲府城跡

甲府城は、甲府市中心部の県庁東側に位置しており、かつては、約19haの広さがありました。

平成2年度より舞鶴城公園整備事業が開始されました。平成16年度以降は、未改修の石垣について、公園利用者の安全確保や文化財保護の立場から点検をし、補修工事を軸としたメンテナンスを行っています。補修が必要とされた部分は個別に観察され、石垣のカルテとも言うべき石垣維持カードに記録した後に、県土整備部・教育委員会・施工業者が施工方法などを検討し、補修工事が行われます。

本年度は、稲荷曲輪北面東側と西面の築城の際に積まれた野面積み石垣の663㎡に約2,200箇所の詰石、栗石充填などの補修を行いました。また、補修工事と併行して実施された調査によって、瓦・和釘が出土したほか、新たに線刻画の発見もありました。

今後も、損傷箇所に緩衝地帯を設けるなどの安全対策を強化するとともに、石工伝統技術の継承、文化財としての石垣の歴史や価値、補修工事の目的や意義などを一般に広く周知するために、イベント開催などの広報活動も積極的に行う必要があると思われます。



補修工事後の石垣



補修工事の様子